

医学部医学科 留学プログラム 情報共有シート

氏名 小屋原 健斗 学年 (留学当時) 4年

派遣期間 2019年 03月 24日 (日) ~ 2019年 06月 20日 (木)

留学先 ウェイン州立大学(ミシガン小児病院)

- 1 プログラム内容について
リサーチ・クラークシップでの留学

実施内容：CCEP を元にした脳波解析による高次脳機能の研究

- 2 宿泊施設について

寮

ホームステイ

ホテル

- ・広さ 約 50m² 2人部屋
- ・費用 約 90000円 / (1日・1週間・1か月間)

- 3 生活について

- (1) 生活費 (寮費を除く)

項目	金額	内訳
食費	120000円	三か月分の食料 (野菜、お米など)
学用品購入費	5000円	文房具、ノート
交通費	30000円	Uber
その他	50000円	周辺観光
合計	205000円	

- (2) 治安状況・危険地域など

ダウンタウンの中心は昼夜関係なく治安が比較的良かったです。郊外に行くにつれて物乞いも増えてきて暗くなってから外出するのは危険になっていきます。夜遅くなるときはuberを使って移動したほうが良いでしょう。

(3) 一日のスケジュール(月～金)

6:00	7:00		9:00	10:00		12:00					17:00
起床	朝食、シャワー	自由時間	家を出発	病院到着		昼食					病院を出発

18:00	19:00					24:00
家に到着	夕食	自由時間				就寝

(4) 休日の過ごし方

デトロイトにある博物館や科学館に行き、アメリカの文化を体験していました。またラボの先生方に車を出していただいて少し離れた周辺街のカフェやレストランに行き、現地の方々と交流していました。

4 感想等

① 留学を通じて感じたこと

- ・海外の医師や研究者と議論して自分の意見を主張するためには英語力が求められるということ
- ・日本と海外とで医師の働き方や社会的立場が異なるということ
- ・日本に比べて医学生のプレゼンテーションの機会が多くあるということ
- ・人種など多様性がある

② 今後、この経験をどのように活かすか

ラボにいる日本から留学されている臨床の方やアメリカで臨床医として働いている日本人の方からお話を伺えたので今後の自分のキャリアについて考えることができ、それを達成するために残りの学生生活をどのように過ごすかを計画立てることができました。

③ 後輩へのアドバイス

日本人の方が多いラボですが、現地の医学生や医師の方との交流もあるので興味深いお話が沢山聞けて非常に留学することに意義を感じました。そのためにも最低限の英語を身につけていくと良いと思います。

医学部医学科 留学プログラム 情報共有シート

氏名 水野 亜紀 学年 (留学当時) 4年

派遣期間 2019年 3月 25日 (月) ~ 2019年 6月 20日 (木)

留学先 ウェイン州立大学

1 プログラム内容について

リサーチ・クラークシップでの留学

実施内容：てんかん患者の脳波の解析

3月から5月の中旬までは、脳波の解析作業を行った。うまく電気刺激が伝わらなかった電極、60Hzの交流ノイズがのってしまった電極、てんかんの病変部にのせた電極、spikeの波形が出ている電極などを、脳波データを一つ一つチェックして解析から除く必要がある。その作業を計10人分くらい行った。5月下旬から6月の帰国までは、リサーチクラークシップのまとめと学会発表の準備を行った。

2 宿泊施設について

Airbnbで借りた部屋

3か月間通して借りられる宿が見つからず、複数の宿に泊まったため、何度か引っ越しをした。ウェイン州立大学の寮は12月頃にはすでに埋まっていた。寮は病院から徒歩20分ほどでアクセスが良く、治安も心配ないと感じた。早めに寮を押さえるのがお勧め。

・広さ 約 m² 一人部屋

・費用 約 30万円/3か月間

3 生活について

(1) 生活費 (寮費を除く)

項目	金額	内訳
食費	約\$200/月	朝昼夕
学用品購入費	0	—
交通費	\$30/月+α	Q Lineの定期、不定期でUberも使った
その他	約\$50	日用品など
合計	\$750	

(2) 治安状況・危険地域など

大学のキャンパス周辺は治安が良かった。ウッドワード通り (Woodward Avenue) という大きな道がウェイン州立大学のキャンパス内をまっすぐ走っていて、その通りの周辺は店が多く、寮があるので学生も多かった。ダウンタウンも人通りが多い。ウッドワードから離れると、人通りが少なくなり、危険な地域もあるので注意していた。常に、大学周辺以外は1人で歩かないこと、

暗くなる 20 時頃までには宿に帰ることを心掛けていた。また、Uber や Lyft をよく利用したが、ドライバーの評価が高評価かどうかにも気を付けるようにしていた。

(3) 一日のスケジュール(月～金)

6:00						12:00						17:00
			家を出る	研究室								研究室を出る

18:00						24:00
	帰宅					

(4) 休日の過ごし方

デトロイト美術館、科学博物館、アフリカンアメリカン博物館、ヘンリーフォード博物館、フォード社の車工場見学、NBA(Pistons)観戦、野球(Tigers)観戦、アウトレットモール、ミュージカルやクラシックコンサート、ファーマーズマーケット、カーレース観戦など。またダウンタウンは、飲食店が多く、川沿いに公園や GM 本社のビルがあり、対岸にカナダのウィンザーという街が見えるので、よく散歩に行った。

4 感想等

①留学を通じて感じたこと

普段の会話中やアブストラクトを書いたときに自分の英語力不足を実感した。書かれた文章を読むと理解できるが、自分でいざ書くとするとすぐに手が止まってしまう、とても難しかった。文法が正しくても使われない英語は、自分では気づくことができないので、指摘していただけることはありがたく非常に貴重な機会であると感じた。

②今後、この経験をどのように活かすか

将来の医師になってからの留学についても考えることができた。浅野研究室には、精神科、脳外科、小児科の先生方が日本から研究留学でいらっしゃっており、お話をすることも多く、医師としての留学のイメージが具体的になった。

③後輩へのアドバイス

研究内容に関係する専門用語も少し頭に入れていくと、カンファレンスなどで話している内容が聞き取りやすかったりして、理解のスピードが早くなると思います。また、3か月というまとまった期間で海外に行ける機会は学生のうちは少ないです。浅野ラボの研究テーマである脳についてはもちろん、それ以外にも本当に多くのことを学べる貴重な経験になると思います。少しでも興味があれば、選択肢に入れてみてください。